

よろずは

平成二五年
七月号

「記紀万葉の故地」シリーズでは、記紀万葉に記された地域にかかわる内容をご紹介します。

記紀万葉の故地 4

記紀万葉の故地は、当時の官道沿いに多く残っています。九州では、大宰府に向かう官道がいくつかありますが、豊前から抜ける道沿いにも、記紀万葉の故地がみられます。

豊国の香春は吾宅 紐児に いつがり居れば 香春は吾家
(訳文)豊前国の香春は私の住み家だ。紐児と結びあつていると、香春は私の家だ。(巻第九の一七六七番歌)

「豊国の香春」とは、豊前国田河郡香春郷のことで、現在の福岡県田川郡香春町にあたります。「香春」の名は、風土記にもみられ、河原がなまったとの伝承があったようです。

その香春が我が家だと言うこの歌は、筑紫(大宰府か)への赴任が決まり、紐児という女性を妻にした時に詠んだ抜気大首(隣の企救郡の在地豪族か)による歌です。企救郡から大宰府へも、香春経由の道が利用しやすかったのかもしれない。他にも香春は、「鏡山」も詠まれており、場所は内陸ですが、官道沿いで分岐点であるがゆえに、歌に詠まれる要素を必然的にもっていたのでしょう。【万葉古代学係】



鏡山付近から南を望む。右が現在の香春岳。大宰府への官道(田河道)は、左方(東)から香春岳の裾に沿って、右奥(南西)へ進んでいく。

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。